

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300537		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「アルコート並木」		
所在地	郡山市並木2丁目18-76		
自己評価作成日	H27年7月20日	評価結果市町村受理日	平成27年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaignokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成27年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 毎月、お客様会議を行い、お客様の希望をお聞きし、食事、買い物など支援している。 法人内の階層別研修、毎月の職員会議時、勉強会を行い、職員のスキルアップをしている。 本年度より、町内会に入り、地域の除草作業に参加、町内のゴミ拾いをしたり、保育園にお客様の作った布巾を持って訪問したり、ボランティアの方に来所していただき、積極的に地域の方との交流に努めている。 毎月、施設全体の合同レクを行い、お客様同志の交流を深めている。 看護師、管理栄養士が常勤でいる為、専門的などこで対応が出来る。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 自治会に加入して、地域の行事に参加したり、事業所周辺のゴミ拾いや除草作業を行ったり、ボランティアを受け入れる等積極的に地域との交流に努めている。 2. 職員研修体系が確立されており、職員は多くの研修を受講する機会が与えられ、スキルアップに繋がっている。 3. お客様会議を開催したり、法人が実施しているアンケート調査により、出された意見や要望を事業の運営に反映させている。 4. 管理者を中心に、協力し合う環境と明るい雰囲気作りを努めて、職員は生き活きた表情で利用者を支援している。また、利用者もそれぞれに役割をもった生活をしており、生き活きた表情が見られる。併せて、家族からの信頼も厚い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を決め、誰でも目に入るところに掲示し、周知されている。その人らしく生活が出来るよう役割や笑顔を引き出すための生活支援を行うよう努めている。	開所時、全職員で理念を作り上げ、事業所内に掲示し共有を図りながら、地域と触れ合い利用者が家庭的な雰囲気の中で、楽しく生活が出来よう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り地域の除草作業に参加したり、ゴミ拾いをしている。積極的にボランティア(日本舞踊、和太鼓、フラダンス、尺八等)の受け入れを行っている。近くの保育園訪問も行っている。	町内会に加入し、地域の一員として除草作業やゴミ拾い、河川の土手に植栽をする等、環境美化活動に参加している。また、ボランティアの受け入れや保育園訪問等を行って地域との交流を図りながら、地域に根ざした運営に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族からの問い合わせや相談があるときは、その都度介護相談を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、行事予定、報告、苦情、事故報告と対策など積極的に意見交換をしている。	運営推進会議を定期的で開催して、事業の活動や利用者の処遇の状況報告、苦情や事故の報告等を行い、委員から多くの意見ももらって、サービスの向上に活かしている。ただ、防災に関わる協力体制の話合いがされていない。	定期的に防災に関わる協力体制について、議題として取り上げて欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員と情報交換をしたり、相談委員と連携し、利用者の意見、要望など伺いサービスの向上に努めている。	利用状況や定例報告をしたり、ファミリーフェスタ会場で、グループホームについて講話をする等、協力関係を築いている。また、介護相談員を受入れて利用者の要望等を把握し、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い、又、日頃から、言葉からの抑制がないかも注意し、身体拘束をしないケアを心がけている。	各種の資料を参考に勉強会を行い、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、拘束の無いケアに努めている。また、日々言葉による拘束等について、実践評価表を用いながら確認している。なお、玄関の施錠については24時間オートロックされている。	玄関が24時間オートロックされた状態なので、併設されている事業所間で、施錠の在り方について検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で倫理の側面からも話し合い、職員間で利用者への関わりを指摘しあえる関係を築いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている方が2名おり、職員、家族と情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用開始時、料金改正時に契約書、重要事項説明書を通して説明、理解を得ている。家族の疑問や不安なことがあれば、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人が行うアンケート調査を行い、意見や要望をもとに改善策を講じ、その結果を公表掲示し、運営に反映できるよう努めている。	利用者には日々の関わりの中や、毎月お客様会議を開いて意見や要望を把握し、家族からは面会時や家族交流会、運営推進会議等で意見や要望を聞いて運営に反映させている。また、法人独自に全事業所を対象としたアンケート調査も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や昼のミーティングで意見や要望を聞き対応している。必要時は法人の上司に報告している。	管理者は日々の関わりの中で、意見や要望を聞いたり、職員会議の中で職員それぞれに意見を求め、それらを運営に反映させている。また、個別評価表を基に個別面談を年2回行って意見等を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の業務目標を設定し向上心を持って働ける環境作りをしている。勤務に関しては毎月希望休について話をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では階層別研修を行い、毎月の会議時に勉強会も行っている。又、外部研修の参加も促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修に参加し、情報交換している。グループホーム協議会に入り、情報交換に努めている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にご本人やご家族から不安な事や要望を聞き、職員全員が情報共有し、安心して暮らせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の負担が軽減できるよう、不安や要望を聞き、ケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前にご家族、ご利用者の意見をお聞きし、今何が必要かを話し合い、納得してサービス利用が出来るよう対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者が一緒に生活リハビリやレクを行い喜怒哀楽を共有している。又、ご利用者様から指導頂く等、関係性を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などご家族の不安や日頃の様子を話し合っている。又、毎月のお便りで日々の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や職員と一緒に墓参りや買い物、食事など外出の機会を設けている。又、家族以外の面会があり、ゆっくり話が出来よう支援している。	家族と事業所が協力し合いながら、買い物や食事、墓参り等を通して、馴染みの人や場所等との関係が途切れないよう支援している。また、家族や知人等が面会に訪れた時は、催し物に参加してもらったり、一緒に散歩に出掛ける等、関わりを多く持たれるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が孤立せず一緒に楽しめるようなレク活動を話し合ったり、個別に話を聞くなどの対応をしている。ご利用者同士が快適に過ごせるよう席の配置も考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居されたご利用者のその後の様子を電話や面会を通して、これまでの関係性を大切にしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のお客様会議や日々の会話から希望や要望を探り支援している。	毎月実施しているお客様会議や、日頃の会話や表情等から、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、本人本位に検討し介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から以前の生活環境や趣味などを聞きカンファレンスで話し合い継続出来る様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのセンター方式(24時間シート)を行い生活リズムの把握に努めている。申し送りやミーティング、生活表を見ることで理解している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族から要望等を聞き、カンファレンスにて職員が積極的な意見交換をし介護計画に反映させている。	利用者や家族から要望等を聞いて、カンファレンスの中で担当職員の意見等を加えて、利用者の残存機能を生かし、役割を持たせた介護計画が作成されている。また、アセスメントや担当者会議を実施し、現状に即した介護計画を作成している。さらに、支援内容も具体的に記録されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添ったケアや記録をし申し送りにて情報を共有している。カンファレンスにて見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化に気付いた時は家族と相談し受診を支援したり、往診の依頼をしている。買い物、散歩の支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科、訪問美容、訪問マッサージの利用ができるよう支援している。又、地域ボランティアの受け入れも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望のかかりつけ医に受診が出来るよう支援している。主治医に日頃の健康状態を報告し薬の調整、相談をし連携を取っている。	本人、家族の希望するかかりつけ医や、医療機関を継続受診出来るよう支援しており往診もある。通院は家族付き添いを原則としているが、家族の都合により事業所も代行支援している。受診情報や受診結果は、受診記録により医師、家族、事業所が情報を共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で看護師がいる為、少しの変化も報告しアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、ケアマネが病院で面会したり、ソーシャルワーカーと情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時、重度化看取りに関する指針により、ご家族に意見確認し、同意を得ている。看取りに関する勉強会も実施している。	利用開始時に、「重度化・看取りに関する指針」により説明し、重度化や終末期の意向確認を行い同意を得ている。また、管理者は事業所の重度化や、終末期への対応力を十分認識し、事業所が行える最大のケアや方針を共有するよう、継続的な研修を実施している	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、いざという時に対応出来る様にマニュアルの確認をするよう声掛けし、緊急時対応の勉強会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画により毎月防災訓練を行っている。緊急連絡網があり訓練も行っている。3月は市の相談員の参加、消防立会いにて実施している。	地域との協力体制はまだ構築されていないが、防災訓練計画により、毎月、火災・地震・風水害等、昼夜を想定した避難訓練を実施している。また、併設事業所との合同避難訓練や消防署立会いの総合避難訓練を年2回実施している。非常用備蓄品も準備している。	災害時に地域住民等の協力体制が得られるよう検討して欲しい。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員がご利用者に敬う気持ちを忘れないよう話をしている。プライバシーポリシーの勉強会の実施。接遇、言葉つかいの適正に関する評価基準表を使い、言葉つかいの振り返りを行い、日頃の言葉使いに注意している。	個人情報保護に関する研修会を実施し、日頃の支援を振り返り、接遇や言葉づかい等を自己チェックし評価を行い、利用者の人格を尊重し誇りやプライバシーを損なわない対応や言葉かけに努めている。書類等は施錠管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎月のお客様会議で希望を聞いたり、日々の生活の中でも聞いている。希望を聞いて叶えますツアーを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご利用者の状態気分に合わせ、無理することなく過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の身だしなみはその都度、行っている。希望により、化粧やネイル、毛染めの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜の下処理、盛り付け、片付けを利用者と一緒に、職員と利用者が一緒にテーブルを囲み、会話をしながら楽しく食事が出来る様にしている。	利用者の能力を活かし、食材の下準備や盛り付け、片付け、食器洗い等を職員と共に行い、一緒に食事を味わいながら楽しい食事となるよう支援している。また、誕生日、季節に応じた食事やお客様会議で出された要望を献立に反映させ、行事バイキングや外食等を実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、形態、嗜好品、硬さ、禁食など個別に表にし冷蔵庫に貼り全員に周知している。水分の少ない方には飲み物の工夫もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、磨き残しは一部介助している。義歯管理も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活シートを活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的に声掛け誘導を行っている。ミーティング等で排泄用品の検討をしている。	排泄チェック表で、利用者の排泄状況を把握し、利用者の状態に応じた声掛けとトイレ誘導を実施し、自立に向けた支援を行っている。また、利用者の状態に添ったオムツやパットの使用について、職員で話し合いオムツからリハビリパンツに改善された利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を促したり、乳製品の提供、看護師に相談し、下剤の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の拒否が多い利用者にはカレンダー作成したり、希望に応じて午前中に入浴も行っている。	利用者の希望に合わせた入浴を実施している。また、好みの入浴剤を使用したり、菖蒲湯やゆず湯を実施して、入浴を楽しめるよう取り組んでいる。入浴を好まない方には入浴カレンダーの作成や言葉掛け、対応の工夫、職員の連携により、入浴が出来るよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体力、その日の状態に配慮し、生活リズムに合わせて休息が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更があったときは申し送り、又、受診後のカルテ確認も行っている。副作用や疾病について看護師の指導もあり、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのやりたい事や得意なことを聞き、生活リハビリなど役割を持っていただくことで張り合いのある生活をしていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて買い物や散歩、外食、ドライブなど外出の機会を設けている。急な買い物の依頼にも対応している。	季節に応じた花見、紅葉見学、公園等にドライブに出かけている。また、利用者の希望に応じた買い物、食事、散歩等日常的に外出出来るよう、家族の協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談しながら、ご自分で出来る方には管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったときは電話が出来るよう支援している。現在、手紙を出したいといわれる方がいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明、湿度、温度調整を行っている。共用空間の清潔、臭いに気をつけ、季節感のある作品の作成展示を利用者と一緒に行っている。	季節を感じさせる共同作品を掲示し、観葉植物やソファが置かれ、ゆったりくつろげる共用空間となっている。また、清掃が行き届いており、温度・湿度管理がなされ、目の前の河川遊歩道を行き交う人々と風景を眺めながら、居心地良く過ごせる造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりがゆったりと新聞を読んだり、歌を聴いたり出来る環境作りをしている。食事が楽しく出来るよう席の配慮も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室にテレビや馴染みのあるものを置いたり、写真など飾り落ち着ける空間作りをしている。利用者が作った作品を展示し、居心地の良い環境作りを心がけている。	持ち込みは少ないが、居室には姿見やテレビ、アルバム等を持ち込み、写真や自分の作品を飾り、落ち着いて過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように張り紙をしたり、ご自分の居室が分からなくなる利用者には、その方の目線にあった位置に名前を貼り分かり易くしている。		